

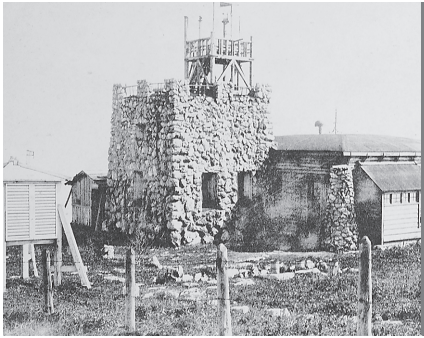
■…独特の冬の気象…■



雪原と真っ青な空



像にできたエビノシッポ



当時の測候所



殉難之碑

5合目付近から山頂部に連なる冬山のルート



冬の伊吹山 雪の造形が作り出す大絶景

☑きびしい気象条件

純白の山頂、ヤマトタケルノミコト像にはエビノシッポ(霧水の一つ)が整然と並び、真っ青な空とのコントラストが見事です。冬の伊吹山には、たくさんの岳人が、その白い頂をめざします。雪崩を避けるために、夏の登山道とはル

重量感があり、麗人のごとく魅了される山容

冬の間、伊吹山登山は、雪の造形が作り出す大絶景が広がります。同時に、大陸からの季節風が吹きつけて暴風多雪となり、大変きびしい気象条件になります。ひとたび天気が悪化すれば、雪崩、滑落、ホワイトアウト(雪や雲などで視界が白一色となり、方向・高度・地形の起伏が識別不能となる現象)、道迷い、低体温症などの危険もあり、常に死と隣り合わせといえるでしょう。

かつては測候所が冬の伊吹山といえは、有人観測史上、世界一の積雪量(11・82m)を記録したのは、1927年のことでした。その記録は未だに破られていません。かつては、伊吹山山頂に測候所(1918〜2001年)がありました。2001年12月15日、測候所の勤務交代のために登山中、3合目で猛吹雪となり遭難されたのです。その3年後にも山頂付近で雪崩に巻き込まれ命を落とされました。また、伊吹山表登山道の1〜10合目は、測候所建設に向かう資材運びの方の休憩場所にちなんで刻まれたと聞きます。そういえば、伊吹山麓、三島池から望む白色の伊吹山は格別です。どっしりと重量感があり、池に映し出される山容は麗人のごとく魅了されることでしょう。

伊吹山

やまはな便り

9



伊吹山ネイチャーネット
ワーク事務局長
山下 吉和